

MAFF ナビ いわて

東北農政局 岩手県拠点
令和8年2月

本紙は、農業や食料に関する情報をデータとともに提供し、農業関係者から消費者まで、皆さんに農産物の生産・消費に興味を持っていただき、考える材料として発信しています。

今回は、「農業と環境について考える」をテーマとして、水稻栽培における JA 岩手ふるさとの温室効果ガス抑制に向けた取組と、県内の学生による「学生チャレンジ」の取組を紹介します。

本紙が、農業と環境を考えるきっかけとなれば幸いです。

1 JA 岩手ふるさとの取組を動画で PR

JA 岩手ふるさとは、令和7年3月に、組合員の水稻生産者 3,756 経営体で、秋耕及び中干しの延長による温室効果ガスの排出量削減や、化学肥料・化学農薬の使用量を5割以下に低減した特別栽培米の拡大に取り組むことを計画し、みどり認定を受けました。

みどり認定は、みどりの食料システム法に基づき、環境負荷低減事業活動実施計画又は特定環境負荷低減事業活動実施計画を作成し、都道府県知事から認定を受けます。

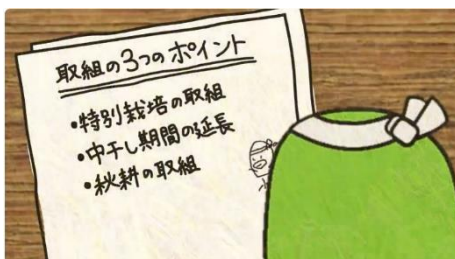
当拠点では、こういった取組を拡大するために、JA 岩手ふるさとから協力をいただき動画を作成しましたので紹介します。

みなさんが地域の取組を考える際の資料としてご活用ください！

動画はこちら →



🔍 岩手県拠点 みっちゃんがゆく で検索



－ みどりの食料システム戦略 －

みどりの食料システム戦略は、農林水産省が2021年に策定した、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を図る国家戦略です。背景には、気候変動や自然災害、生産者減少などにより、食料供給の安定が脅かされていることがあります。そこで、生産から消費までのすべての段階で環境負荷を下げ、持続可能な食料システムへ転換することを目指しています。

主な目標としては、2050年までの農林水産業のCO₂ゼロエミッション化、化学農薬使用量の50%低減、化学肥料使用量の30%低減、有機農業を耕地面積の25%へ拡大などです。これにより、環境保全と食料安全保障を同時に実現し、将来にわたり持続可能な食料生産を守ることを目的としています。

JA 岩手ふるさとは、この取組を組合員のみなさんと共に取り組むこととしたところです。

2 JA 岩手ふるさとの主な取組

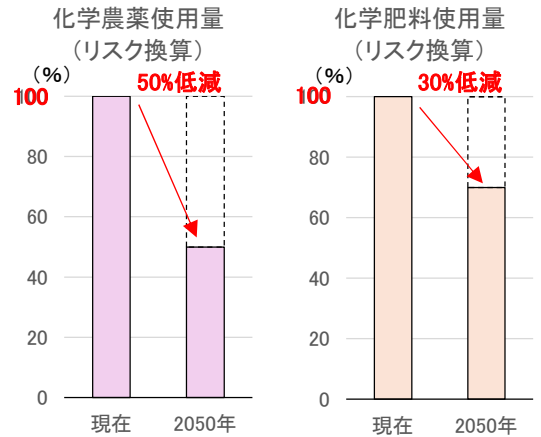
(1) 特別栽培

特別栽培とは、農産物生産過程における化学農薬・化学肥料の使用状況が、地域の慣行的な使用と比べ、節減対象農薬の使用量が 50%以下、化学肥料の窒素成分量が 50%以下、で栽培する取組です。

JA 岩手ふるさとは、「特別栽培米」の作付拡大を目標に掲げています。

農林水産省では、みどりの食料システム戦略において、化学農薬及び化学肥料の使用量を低減する目標を掲げているところです。

みどりの食料システム戦略目標



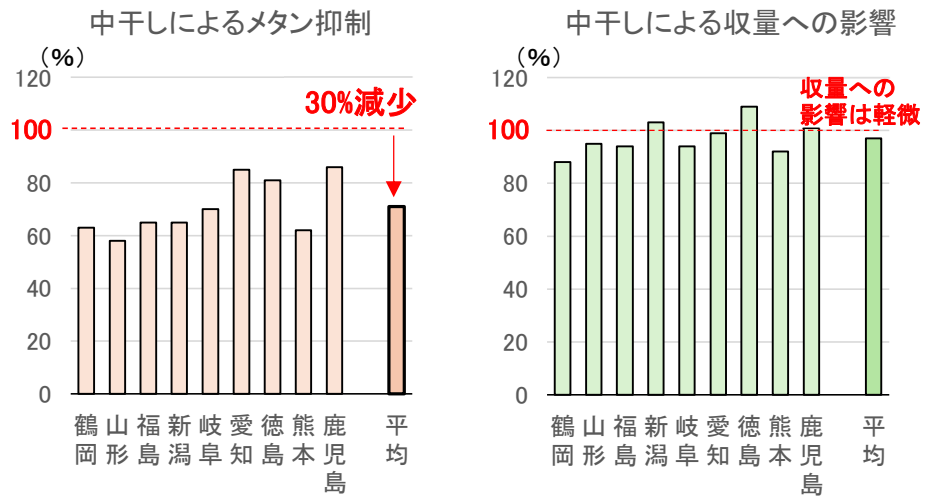
(2) 長期中干し

中干しとは、水稻の栽培期間中である出穂前に一度落水し、田面を乾かすことで過剰な分けつを防止し、成長を制御する作業のことをいいます。

水田から発生するメタンは、土壌に含まれる有機物や、肥料として与えられた有機物を分解して生じる二酸化炭素・酢酸などから、嫌気性菌であるメタン生成菌の働きにより生成されるため、落水期間（中干し期間）を長くすることでメタンの発生を抑制することができます。

JA 岩手ふるさとは、「中干し期間を延長」することでメタンの排出を削減することを目標に掲げています。

独立行政法人農業環境技術研究所が、全国 9 地点で行った実証試験の結果では、中干し期間を一週間程度延長すれば、収量への影響を抑えつつ、メタンの発生を約 30%削減できるとなっています。



収量への影響は少なく、環境保全効果は大きい◎



資料：(独)農業環境技術研究所「水田の中干し延長によるメタン発生量の削減」

長期中干し

通常よりも長期間の中干しを実施する取組



地球温暖化防止効果

水田において長期間の中干しを行うことで水田土壌を乾かし、嫌気性のメタン生成菌の活動を抑制してメタン(温室効果ガス)の排出を削減する

取組による効果

湛水時

メタン排出多

メタン生成菌が活動

長期中干し実施時

メタン排出少

メタン生成菌の活動抑制

全国 8 県 9 地点でのほ場試験の結果、慣行の中干し期間を一週間程度延長することでメタン排出を約 30%削減。(Itoh et al. 2011)

【留意事項】 地域の生物相に応じて、地域内に江の設置や中干しを実施しない水田の確保など、生物保全の対策を検討することが推奨されます。

(3) 秋耕

秋耕とは、米の収穫後地温の高い秋のうちに稲わらをすきこみ、土壌中の稲わら分解を進める作業のことをいいます。

稲わらを代かき前にすきこんだ場合（春耕）と比較し、湛水時のメタン発生を低減できるとされているほか、「ワキ」（硫化水素）の発生防止や土づくりの効果といった営農上の利益もあるとされています。

JA 岩手ふるさとでは、秋耕を広く導入することを目標に掲げています。

秋耕によるメタンの削減効果としては、農水省の実証事業で削減率のデータを取得しているところですが、少なくとも 10%程度は削減されると言われています。

秋耕

秋季に耕うんを行い、翌春に水稻を作付け（湛水）する取組



地球温暖化防止効果

秋に耕起を実施して稲わらを土壌中にすき込むことで、稲わら中の有機物の好気分解を促進し、翌春の水稻の作付け（湛水）時にメタン（温室効果ガス）の排出を削減する

取組による効果

秋期 翌春

稲わらのすき込み

有機物の好気分解の進行

メタン排出少

メタン生成圏は嫌気的な環境下で易分解性有機物を分解してメタンを生成するため、湛水開始までに稲わら由来の易分解性有機物の分解を進行させておくことで、メタンの排出量が減少する。

※各取組の効果は、第2期第6回第三者委員会資料1にて算定手法を公表しております。

－ 生産者のみなさんへ「ちょっとお得な情報」 －

－ J-クレジット制度 －

J-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度であり、農林水産事業者の皆様も活用できます。

本制度を活用した場合、地球温暖化対策への積極的な取組としてPR効果が期待できることに加え、クレジットを温室効果ガスを排出する側の大企業等へ売却することで、利益を得ることができます。

岩手県内の農業での取組では、「中干し期間の延長」で申請した方が多いです。

10a 当たり 1,500 円～4,000 円程度の収益が見込まれます。



詳しくはこちら →

－ みえるらべる －

みえるらべるとは、環境負荷低減に取り組み生産された農産物を、消費者が直感的に連想しやすいラベルとして活用を推進しています。

消費者が「みる」、「えらべる」から「みえるらべる」としました。

岩手県内の申請で多いのは、野菜の有機栽培や減化学農薬・減化学肥料栽培などの取組です。

なお、野菜で申請する場合は、対象品目が限られているので確認が必要です。

もちろん、米でも申請できます。

また、ラベルは無料となります。



詳しくはこちら →

3 高校生・大学生の取組紹介（令和7年度）

農林水産省では、高校生や大学生が行った「農業や食料に対する環境保全の取組」を対象に、学生チャレンジの表彰を行いました。受賞（高校の部：6点、大学の部：1点）された県内の高校生と大学生を紹介します。

【全国表彰__AgVenture Lab 賞】

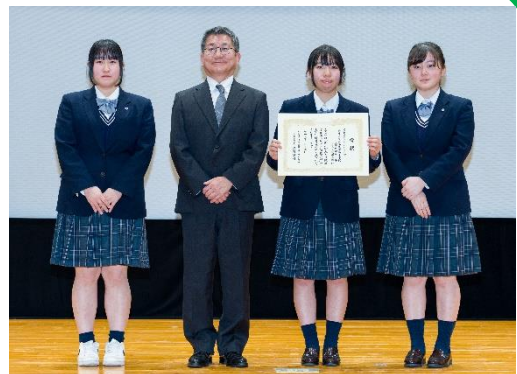
学校名 岩手県立花巻農業高等学校

取組名 ホップでフードロス削減

概要 ホップの毬花（きゅうか）にある樹脂成分「ルプリン」には抗菌作用があり、それを利用することで、フードロス削減に貢献できないか考えた。

「ルプリン」をソーセージに添加することにより、従来より長い賞味期限を実現。

また、エグミの問題も研究により解消。



【東北表彰__東北農政局次長賞】

学校名 岩手県立水沢農業高等学校

取組名 「エシカル×地域性」資源活用

副産物を無駄にせず資源として活用し、地域ブランドとなる商品を開発することで地域振興を図る。



【東北表彰__東北農政局みどり戦略推進官賞】

学校名 岩手県立盛岡農業高等学校

取組名 雫石黒千石でつながる地域の輪

地域資源である「雫石黒千石」（豆）を活用。食育活動を通じて“食の大切さ”を実感し、地域の魅力を発信。



【東北表彰__みどり戦略チャレンジ賞】

学校名 岩手県立水沢農業高等学校

取組名 廃棄副産物を活用したパンの開発

廃棄されることが多い、精米時に発生する割れた「くず米」や規格外の野菜、おからを活用したパンの製造。



【東北表彰__みどり戦略チャレンジ賞】

学校名 岩手県立久慈翔北高等学校

取組名 後世に受け継ぐ「日本一の白樺美林」

白樺木炭を活用した苗木の生産や、廃棄されている規格外シイタケと白樺樹液を活用したシイタケ佃煮の商品化。



【東北表彰__特別賞（みっちゃん賞）】

学校名 岩手県立盛岡農業高等学校

取組名 ウルシ変化物語

未利用資源の有効活用として、活用事例が殆どないウルシの実を使ったコーヒーの普及を進める。

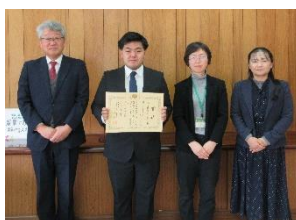


【東北表彰__みどり戦略チャレンジ賞】

学校名 岩手県農業大学校

取組名 地域資源「酒粕」が肥育牛に与える影響

酒粕が需要低下によって廃棄量が増加していることから肥育牛の飼料として活用。牛に対する影響とコストを研究。



詳細はこちら



全国表彰の結果 →



東北表彰の結果 →

東北農政局岩手県拠点
岩手県盛岡市盛岡駅前北通1-10
019-624-1125

MAFF